ニュー北町商店街（東京都練馬区）

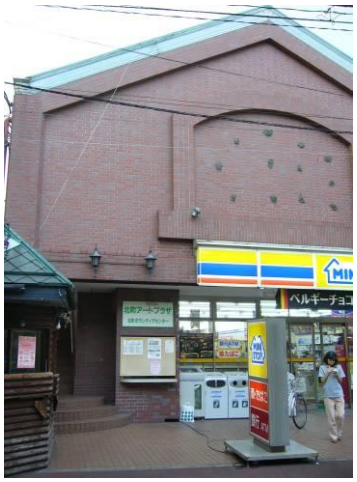
１．取り組みの概要

ニュー北町商店街では大型店の出店を契機に、大型店とは異なる商店街ならではの取り組みを目指すために、NPO 法人を設立し、商店街振興組合の拠点施設である「アートプラザ」を活用して、高齢者デイサービス事業の「いこいの家」や、子育て支援の「かるがも親子の家」などの活動を開始した。さらに、拠点施設での活動だけではなく、ボランティア参加者には地域通貨である「ガウ」を発行するなど、少子高齢化対策を通じた商店街の活性化に向けた取組を行っている。

２．商店街概要

商店街名	ニュー北町商店街振興組合
所在地	東京都練馬区北町 2-35-4
組合員（会員）数	50 店舗
URL	http://www.newkitamachi.jp

商店街の様子



ニュー北町商店街地図

（出所）ニュー北町商店街振興組合「わが街北町！」

３．取り組みに至る経緯・背景

ニュー北町商店街は、練馬区と板橋区の境目に位置し、両区からの集客のある商店街である。商店街振興組合は平成元年に設立され、比較的新しい。ニュー北町商店街の周辺には陸上自衛隊練馬駐屯地や伸銅工場があったことから、ニュー北町商店街はそれらに勤務する人向けの飲食店や居酒屋の占める割合が高いが、これらの店舗は小規模なものが多く、自衛隊の異動の時期に行われる歓送迎会の際には店に大人数が入りきらない状況にあった。そのため、商店街では都と区からの助成を受けて、平成 3 年に商店街会館を建設し、1 階をテナント（現在、ミニストップが入居）、2 階をアートプラザとして畳敷きの広間に机やカラオケのセットも整えた貸会場とし、商店街の各店舗が宴会等に利用できるようにした。

一方、平成 6 年には商店街に隣接する伸銅工場が移転し、平成 12 年に、その工場跡地に大型商業施設のサティが開店した。大型商業施設に対して商店街としては危機意識を抱き、広告費や営業時間では大型店には敵わないが、商店街だからこそできる地域への恩返しがあるとして、またこの年に介護保険制度が施行されたこともあり、アートプラザの使われていない曜日を利用して 65 歳以上の高齢者を対象にしたデイサービス事業「いこいの家」の活動を始めた。

また、児童虐待が社会問題になっている中で、地域から虐待児を出さないことを目指し、子育て支援事業である「かるがも親子の家」の活動も始めた。

なお、これらの活動を行うに際して、商店街のおかみさん 4 人を中心に平成 13 年に NPO 法人「北町大家族」を設立して取り組んでいる。NPO 法人の設立にあたっては、手続き面で 3 回の申請書類の修正・提出しなおしなどがあったが、逆にその苦労が NPO 活動を行っていく上での覚悟を決めることにつながったという。

４．取り組み内容

(1) デイサービス事業「いこいの家」

平成 12 年 7 月より、65 歳以上の高齢者を対象に、カラオケ教室、絵描き教室、太極拳等の活動を行っている。活動は毎週火曜日の 10 時～15 時で、毎回 15 名程度の参加がある。

いこいの家は利用者の中で特技を持っている人が講師役となって互いに教えあって活動を行うため、講師もボランティアである。会場であるアートプラザは 2 階にあり、階段を上らないといけないため、階段を上ることができる元気な高齢者が対象となる。

(2) 子育て支援事業「かるがも親子の家」

平成 13 年 1 月より、子育て支援「かるがも親子の家」を実施している。「かるがもの家」は親と子が自由に集まる拠点であり、子どもはボランティアと遊んだり、母親同士で交流したりしている。0 歳児の利用が多く、練馬区だけではなく隣接する板橋区からも利用者があるという。

かるがも親子の家の活動をはじめるにあたっては、商店街有志が布団やぬいぐるみ、おもちゃなどを持ち寄るとともに、ボランティアは、商店街のおかみさんや、各商店の常連のお客さんなど、呼びかけに応じて様々な人が参加して活動している。これらのボランティアの活動を通じて自分のまちという感覚を持つことにもつながるという。

核家族化が進む現在は、多世代がみんなで少しずつ助け合うというぬくもりが忘れられてきているが、かるがも親子の家の活動により、子育て世帯との 3 世代交流が図られ、人の顔が見える、血の通った関係が築けているといえる。例えばハロウィーンの際には、かるがも親子の家の利用者が仮装をし、商店街の店舗に飴をもらいにいくなどにより商店街との交流が図られている。

ハロウィーンのイベントの様子

また、平成 14 年から 3 年間は、こども未来財団より助成を受けることとなったが、助成を受けるにあたって週 3 回の開催が条件であったため、週 1 回の活動から、月曜日、水曜日、木曜日の週 3 回、10 時～15 時の活動になった。全国で助成を受けられたのは 10 箇所

であったが、助成期間終了後も活動を続けられることが選定の決め手であったとのことである。こども未来財団からの助成は、主に押入れの設置や玄関への柵の設置、絵本の購入等のアートプラザの環境整備に充てられた。人件費にも充てることが出来たが、助成終了後のことも考慮したボランティアが、人件費分を寄付し、今後の活動資金に充てることになった。また、助成終了後、多くの団体は自治体からも補助金や助成金を受けての活動を行っていたが、かるがも親子の家は、何の支援も受けずに活動を続けていた。しかし、実績もあることから平成 19 年からは練馬区の事業「子育てのひろば」に選定されて、保育士も配置して活動を行っている。また予約制で一時預かりの託児事業も行っている。区の事業となったことで、以前は利用料に 200 円がかかったが、現在は無料で利用できる。

(3) 地域通貨「ガウ」

地域通貨「ガウ」は平成 13 年 10 月から発行し、北町いこいの家やかるがも親子の家など、ボランティア参加者の謝礼に対してガウで支払っている。1 ガウ＝1 円のレートで、商店街での買物に利用することができる。

地域通貨が利用しやすいものとなるよう、ニュー北町商店街だけではなく、周辺の商店街にも声がけして利用可能な店舗を広げており、平成 13 年の発行開始から平成 22 年 6 月現在まで、9,296,200 円のガウが発行されている。

地域通貨「ガウ」

（出所）ニュー北町商店街振興組合ホームページ

(4) かるがもカード

地域通貨「ガウ」と同時に、平成 13 年から「かるがもカード」事業を行っている。「かるがもカード」は取扱店舗で、100 円ごとに 1 ポイントがつき、400 ポイントたまると、定期的に開催される「まんてん市」でお得な商品と交換できる。

かるがもカード

（出所）ニュー北町商店街振興組合ホームページ

５．取り組みによる成果

(1) 成果

取組の成果は、商店街の売上げという点では顕著には出ていないが、特にいこいの家の活動に参加している高齢者等を中心に、せっかく買物をするのであればいこいの家の活動でお世話になっているあのお店で、というような意識から新たに商店街の常連客になるような例が見られてきた。

大型商業施設の出店に対する危機感はあったが、商店街での取り組みや、また大型商業施設のテナントと商店街の業種の違い等もあり、常連客に関しては減ることもなく営業が続けられているという。

また、地域通貨のガウを発行することで、その利用した人が商店街と何らかのかかわりがあることがわかるようになってきている。これまでいこいの家やかるがも親子の家などのボランティア活動に参加した延べ人数は 100 名を超えている。

(2) 成功のポイントや工夫

このような成果をもたらしたポイントや取り組み上の工夫として、以下の点をあげることができる。

- 大規模商業施設の立地という危機を契機に、商店街でしかできない取り組みという視点を持てたこと。
- 比較的歴史が新しい商店街であったことから、新たな取り組みに対して抵抗がなかったこと。
- 「アートプラザ」という拠点施設があったために事業実施の場所が簡単に確保できたこと。
- 介護保険制度等の動きも捉え、また助成金や委託事業等の制度をうまく活用し、事業を展開していったこと。
- 当初から助成金・補助金に頼ることなく、お金はもらえればよい程度の気持ちで、自立した経営を可能としていたこと。
- 人付き合いの多い商店街のおかみさんが中心になって活動を行っているため、活動を

行うボランティアはおかみさんを中心に商店の常連客も含めて色々な人に広がっていること。

- コアメンバーである 4 人のおかみさんが重要な判断事項は決定し、その他事項については多くのメンバーの意見を取り入れて多数決で決定するという意思決定体制が構築されているため、確実にものごとが決まっていくこと。
- 会合は、始まりと終わりの時間を厳守することで、出席率が高くなっていること。
- 活動を始めたおかみさんたちだけではなく、後継者となる人材も育てていること。

６．課題と今後の展望

(1) 次期担い手の育成

もともと商店街のおかみさん 4 人が中心となって開始した事業であり、NPO 法人の理事長は 4 年任期で、現在コアメンバーのおかみさんの 4 人のうち 3 人までが理事長を務めている。継続的に事業を行っていくためには、次の担い手の確保が重要となる。現在、本活動に参加している保育士である 30 代の女性が次期のコアメンバーとして期待されているところであり、現在の活動の基礎を築いていたおかみさん同様、この女性を支え、一緒に活動を担っていく他のコアメンバーとなる人材の発掘と育成が求められている。